

日高軽種馬協たより

HBA

日高軽種馬農業協同組合

☎0146-22-2258 FAX 22-3452

令和4年8月15日

第 **391** 号

セレクションセール 過去最高の成績に

7月26日(火)～27日(水)の2日間、北海道市場でセレクションセールが開催された。本年は例年に比べ約70頭多い311頭のカatalog掲載頭数となり、25日(月)に全頭比較展示、セールは2日間かけておこなわれた。2日間の総売上額は53億3,830万円(以下、すべて税込)、平均価格は2,029万円、売却率は87.4%、最高落札価格馬は上場番号204番レーヌミノル2021(静内・(有)フジワラファーム)の7,260万円だった。購買登録者数は987名となった。

(比較については次頁参照)

昨年のセレクションセールは総売上額、平均価格、売却率すべてが過去最高の結果となったが、本年はそれを上回る結果となった。ここ数年のセレクションセールは取引馬の活躍が目立ち、それに呼応されるように年々市況が上がり続けている。本年のカatalogでも母や兄弟に旬な活躍馬が散見され非常に楽しみなラインナップとなった。前日の展示日では、強い日差しもあったが風が吹くと涼しく感じる北海道の夏らしい陽気にも恵まれ、8回に分かれて比較展示をおこない各馬、各上場者が堂々とした展示を披露した。

迎えたセール初日の上場番号1番セシリア2021(門別・(有)天羽牧場)は、4代母が名牝ウインドインハーヘアで半兄にはラジオNIKKEI賞で2着の実績があるワールドリバイバルがいる抜群のブラックタイプを持つ父ドゥラメンテの牡駒。1,200万円のファーストビッドからビッドの応酬で瞬く間に競り上がり4,840万円で落札となった。落札したのは1歳上の全兄ショウナンアキドンを所有する国本哲秀氏だった。

その後は本セール最多の20頭が上場となった

カリフォルニアクローム本邦初年度産駒の上場番号8番ダイワドレッサー2021が登場。母は1勝馬ながらフェアリーステークス2着など3度の重賞入着があるうえに、父を彷彿される美しい栗毛の存在感が比較展示でも際立っていた。ファーストビッドの1,200万円からテンポの良い競り合いが続き最後は4,620万円で落札となった。この後も3,000万円を超えるような高額取引が随所に見られ活発な雰囲気のままセールは進行していった。

初日も折り返しを迎え、本セールから3頭の重賞勝ち馬を輩出したモーリスの産駒、上場番号111番ゴールドチェイス2021(静内・(有)グランド牧場)が6,600万円で落札され、この日初めて6,000万円を超えた落札となった。

この盛り上がりのなか、上場番号125番ディアレストトリックスキ2021がこの日の最高落札価格となる。母は米国GI勝ち馬、父は昨年最優秀ダート馬ターオーケインズ輩出のシニスターミニスターというプロフィールに恥じぬ均整の取れた素晴らしい馬体が多くの人気を集め、



最高落札価格馬：レーヌミノル2021

1,000万円からスタートするものがあったという間に2,000万円、3,000万円と両者一步も譲らない応札で、最後は6,820万円で山元哲二氏によって落札となった。その後も快調に取引は続き、初日の総売上額は27億8,630万円、売却率は84.6%と上々のスタートとなった。

続く2日目もスタートから堅調な取引が続く。この日9頭目の上場順だった上場番号169番スマッシュハート2021（浦河・(有)酒井牧場）が6,600万円で落札。デビューした兄4頭すべてがJRAで勝ち上がる堅実な母馬に、米国年度代表馬に選ばれた期待の新種牡馬ブリックスアンドモルタルを父に配されたこの馬を手にしたのは藤田晋氏だった。

続く上場番号170番ルージュール2021（三石・富沢萩澤俊雄牧場）が4,840万円で落札となるなどこの日も続々と高額取引となり、迎えた上場番号204番レーヌミノル2021（静内・(有)フジワラファーム）は桜花賞を制した母に、父が上述のブリックスアンドモルタルというこのセールでも大注目の1頭に視線が集まった。リザーブを大きく超えた4,000万円のファーストビッドが入ると、4,200万円の応札。返す刀で5,000万円に一気に跳ね上がった後は200万円単位で競り上がり7,260万円母のオーナーだった吉岡實氏によって落札となった。

セールも後半を迎えた頃、今年のセールで大人

気だったシルバーステートを父に持つ上場番号246番マルモニバニー2021（浦河・(有)大柳ファーム）が登場。マックスビューティ輩出の牝系で半姉セイウンヴィーナスがクイーンカップ（GⅢ）で3着となるなど結果を残すファミリー。この馬を巡り場内から次々とビッドが入り最後は6,820万円2020年本セール取引馬ジャスティンロックにより初の重賞制覇を達成した三木正浩氏が落札者となった。

その後も堅調な数字を推移したままセールは終了。この日の成績は総売上額は25億5,200万円、売却率は90.3%と初日を上回り90%の大台を超える結果となった。冒頭の通り、2日間全体の総売上額は50億円の大会を突破し、売却率、平均価格ともにレコードを更新した。しかし、中間価格は前年比で220万円減少となり上場頭数増により上下差が見られた部分もあった。

古川組合長は「正直驚きました。社会情勢や2日間日程にしたことにも不安があったが、それを全部クリアするくらいの成績でホッとしています。購買者数も増えて注目していただいているセリになってきているが、上場者の方に努力していただいで良い馬を上場していただいているお陰です。これから続くセールにもご来場いただいで沢山のご購買をお願いしたいと思います。」と振り返った。

.....

【セクションセール(サラ1歳) 5年間の比較】

	令和4年		令和3年		令和2年		令和元年		平成30年	
平均価格	↑	20,297,718	↑	19,880,049	↑	19,507,065	↓	15,752,650	↓	15,760,752
中間価格	↓	15,400,000	↑	17,600,000	↑	16,500,000	↓	13,500,000	↓	14,040,000
出場頭数	↑	301	↑	234	↓	223	↑	236	↓	193
売却頭数	↑	263	↑	202	↓	184	↑	197	↓	149
売却率	↑	87.37	↑	86.32	↓	82.51	↑	83.47	↓	77.20
売上総額	↑	5,338,300,000	↑	4,015,770,000	↑	3,589,300,000	↑	3,103,272,000	↓	2,348,352,000
購買登録者数	↑	987	↓	886	↑	1454	↑	687	↑	584
購買実績数	↑	166	↑	129	↑	123	↑	119	↓	88

※ 単位(円、頭、%、名)、価格は税込、矢印は前年対比
 ※ 令和2年の購買登録者数はサマーセールとの合算

ノットウルノがJDD制覇 日高産馬が掲示板を独占

7月13日、大井競馬場でジャパンダートダービー（Jpn I）がおこなわれ、4番人気ノットウルノ（門別・(有)下河辺牧場）が初のグレードレース勝ちを取めた。ノットウルノは父ハーツクライ、母シェイクズセレナーデ、姉には中央4勝馬のショウナンバビアナがいる血統。デビュー戦は芝レースに出走したものの惜敗を喫し、3戦目からダートレースに切り替えると頭角を現し、ダートでは4戦2勝、2着2回の成績でここへ臨んでいた。

好メンバーの揃った一戦だった。5月におこなわれた兵庫チャンピオンシップではノットウルノらを相手に8馬身差を付けたブリッツファングが一番人気、デビューから3戦負けなしで安定した強さを発揮しているハピが2番人気、6月におこなわれたユニコーンステークスを制したペイシャエスが3番人気、ノットウルノは差のない4番人気と続いた。例年より早い梅雨明けとなった関東地方だが、当日の雨模様で不良馬場のなかでレースはおこなわれた。

レースではリコーヴィクターがハナを主張し、それをぴったりマークするようにブリッツファング、ダート初挑戦のコマンドラインが続き、ノットウルノは外から先団を見る形に。ペイシャエスが中団の内脚を溜め、ハピは後方から各馬を見る形でレースは流れた。ハイペースでレースが流れた分3コーナーで逃げたりコーヴィクターの脚色は一杯になり、押し出されるようにブリッツファングが先頭となるが、2番手となったノットウルノ共々手応えは楽なまま。4コーナーでは外からハピが勢いよく進出し、上位人気馬での直線の攻防が必至となった。先に抜け出しにかかるブリッツファングとノットウルノの激しい叩き合いが続き、残り100mを切りノットウルノが1馬身ほどのリードを取るところを外から懸命にペイシャエスとハピが襲い掛かるが、既に時は遅く最後までしぶとく粘り切ったノットウルノが初の栄冠を手にした。その後は、ペイシャエス、ブリッツファング、ハピの順で入線し、ハピから5着クライオジェニックまでは10馬身の差が付き、中央勢4頭が格の違いを見せつけた結果となった。

理事会の内容について

【第8回理事会】

◇令和4年8月10日 13時30分 静内支所

〈報告事項〉

1. 北海道軽種馬貿易(株)株主総会の内容について
2. (一社)北海道軽種馬振興公社
第46回通常総会の内容について
3. JRA・JBBA
日高地区生産地懇談会の内容について

4. 長谷川岳参議軽種馬生産等に係る
意見交換会の内容について
5. 第7回市場委員会の内容について

〈議案〉

1. 中間監査の内容について

〈協議事項〉

1. その他

競馬トピックス

7歳牝馬ビリーバーが初の重賞V

7月31日、夏の新潟名物レースでお馴染みとなっている直線1000m重賞アイビスサマーダッシュ（GⅢ）がおこなわれビリーバー（浦河・(有)ミルファーム）が道中じっくり脚を溜めるとゴール前で鋭く抜け出し重賞制覇を達成した。ビリーバーは7歳にして初の重賞制覇だが、馬主ミルファーム、石毛善彦調教師、杉原誠人騎手にとっても重賞初勝利となった。

テイエムスパード日本レコードでの逃げ切りV

7月3日、小倉競馬場でCBC賞（GⅢ）がおこなわれ、テイエムスパード（浦河・(有)浦河小林牧場）が1分5秒8のJRAレコードを叩き出す驚きの逃げ切り勝ちを披露した。今村聖奈騎手を背に激しい先頭争いを制しハナを切ると超の付くハイラップを刻み続けても勢いが鈍ることはなかった。本馬のほかにも、父レッドスパード、鞍上の今村聖奈騎手にとっても重賞初勝利となった。

ビッグアーサー産駒待望の重賞制覇

7月16日、函館競馬場で世代初のJRA重賞、函館2歳ステークスがおこなわれ、ビッグアーサー産駒のプトンドールが優勝した。父ビッグアーサーはこれが重賞初制覇となり、プトンドールのほかクリノマジンやグランアリエルが1200mで3連勝を飾るなど楽しみな産駒が揃っている。

バスラットレオンが英GⅠ挑戦

7月27日、イギリスのグッドウッド競馬場でおこなわれたサセックスステークス（GⅠ）にバスラットレオン（浦河・(有)三嶋牧場）が出走し4着となった。同レースには8戦8勝で欧州トップマイラーの呼び声高いバーイードなどの強豪も揃ったが、バスラットレオンはスタートからハナを切り、直線では一時後続を突き放す健闘を見せた。

札幌競馬開幕

6月11日～7月17日の日程でおこなわれた函館競馬が終了し、23日から札幌競馬が開幕した。21日におこなわれる伝統の札幌記念（GⅡ）ではソダシやジャックドールなどが参戦を表明しており、ファンにとって楽しみなレースになると期待されるほか、ブリーダーズボックス（軽協たより390号参照）も運用され、産地の生産者にとっても楽しみな開催となる。なお、札幌競馬は9月4日までの開催となる。

〈 重 要 〉 サマーセール 新型コロナウイルス感染拡大防止対策等について

【 購買登録について 】

- ・事前に購買登録をいただいた方のみのお入場といたします。
- ・購買登録は事前登録(8/8(月)まで)のみとし、当日の購買登録はいたしません。
※ 入場者の把握をするため、お早めの登録にご協力願います。
- ・購買登録者1名に対し、随行者2名とします。
- ・事前登録時に、来場者確認書(来場者名・連絡先)に記入のうえ、提出をお願いいたします。
※ 入構章は事前に来場代表者様へ送付させていただきます。当日は忘れずに入構章をご持参願います。

【 市場施設内における注意事項 】

- ・市場の公正確保、セール参加者に対するプライバシー保全の観点から、以下の行為を禁止いたします。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。
- セールの様子(北海道市場が配信する映像・音声を含む)を撮影し、これを中継・配信する行為
- 商業目的で、場内施設・上場馬・来場者・関係者・その他セールの状況を撮影する行為

【 施設内における3密回避および感染防止対策 】

- ・セールエリアへの入場口を限定し、入場前に「検温」を実施いたします。
- ・会場入場時の手指消毒にご協力をお願いいたします。
- ・セールエリア内では必ずマスク着用をお願いいたします。
- ・飲食や喫煙時など、マスクを外す場合は、短時間・少人数で、会話を控える等、感染リスクを下げるようにしてください。
- ・各所に「ソーシャルディスタンス」を設けます。
- ・3密回避のため、来場者が多数おられる場所には極力近付かないようお願いいたします。
- ・換気のため、会場内の窓や出入り口など開放いたします。
※ 暖かい服装をお持ちのうえお越しください

【 その他 】

- ・発熱、咳、その他新型コロナウイルス感染者特有の症状がある方、体調のすぐれない方は、ご来場をお控えください。
- ・一般来場者の入場はお断りいたします。
- ・開設者職員、運営に携わるスタッフは、毎朝の検温、体調確認、マスク着用にて対応させていただきます。

「コロナ対策を行いながら現地に来場いただく通常開催で行うせり(※やむを得ず来場出来ない購買者へは、WEBサイトを利用したオンラインビッドシステムによるせり上げを行う方法。)」での開催をご案内しております。

馬の虫刺されによる過敏症




浦河診療所 櫻井健太郎

8月に入り、暑くなる日も出てきたことと思います。今回は夏によくみられる虫刺されによる過敏症についてお話させていただきます。

虫刺されによる過敏症は、サシバエ・ブユ・アブなどの吸血昆虫の唾液腺物質や毒成分が体内に侵入することで引き起こされるアレルギー反応です。この過敏症は、夏に多く見られます。症状は、かゆみを特徴としますが、かゆみを引き起こさずに丘疹（皮膚表面の隆起した腫れ）や痂皮（かさぶた）のみがみられることもあります。馬はかゆみを和らげるために、こすったり、噛んだりします。その結果、脱毛や皮膚の肥厚、二次的な細菌感染を引き起こす可能性があります。皮膚病は顔、たてがみ、胴回り、鼠径部、しっぽなど虫が咬みやすい場所によくみられます。多くの馬はある程度年齢が経ってから発生しますが、アレルギーに過剰反応しやすい馬は1歳ごろから症状を示すことがあります。診断は病変の分布または臨床症状などから行われます。

場合によってはかゆみや腫れなどを軽減させる対症療法の治療を行うときもあります。また、二次的な細菌感染がみられた場合は抗生剤の投与を行う場合もありますが、まずは昆虫に咬まれる回数を減らしていくことが大事です。気温、湿度、日射はかゆみを悪化させるため、日陰の設置や扇風機により風の流れを作ることにかゆみを緩和します。また多くの吸血昆虫は飛ぶのが下手なため、馬に虫が近づかないようにすることもできます。吸血昆虫の活動時間をさけた放牧や虫の発生源となる場所の衛生管理なども有効な手段のひとつです。防虫スプレーやハッカ油なども効果的であり、吸血昆虫が吸血しやすい馬体の部位に散布することで防虫効果が得られやすくなります。また、ハッカ油は他の忌避剤と比べて天候などに左右されず使用でき、さらに清涼感や殺菌効果、消臭効果、炎症鎮静効果なども期待できます。また、飼料添加物であるアマニに豊富に含まれるオメガ-3脂肪酸は、虫刺されによる過敏症の症状を軽減する可能性があるという研究報告もあります。

最後に、吸血昆虫の一覧をまとめましたので、防虫対策の一助となれば幸いです。

昆虫	発生源	吸血する時間帯	吸血する場所
ブユ 	堆肥場、水場	朝と夕方	顔、耳、腹部、鼠径部 太もも、前肢内側
サシバエ 	少し古めの糞	昼	腹部、四肢
アブ 	植物の葉裏、水場	昼	胸部、脇腹、四肢